

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	北区浮間 4-14-9
園名	アスクうきま保育園

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

外国の国旗について知る

＜テーマの設定理由＞

海外のお子さんが増える中で国旗を通して世界の国々への関心を広げたいと考えたため。そして英語だけでなく様々な言語、文化があることへの興味やなきごえなどにも広げた探求にしていきたい。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする

- ・11月：様々な国の国旗に触れる。お寿司とハンバーガー、相撲やフットボールなどを比較し、日本とアメリカのどちらに当てはまるのか、ゲームを通し学んだ。
- ・12月：前回と同様、国旗を使い、様々な国に触れる。また講師が見せてくれた国旗には、どのような模様があるか、みんなで考えた。
- ・1月：アメリカ国旗の塗り絵を見せ合う。その後はハートや星など、好きな模様を描き、オリジナルの国旗作りをする。
- ・2月：自分で作ったオリジナルの国旗を見せ合う。園のオリジナル国旗をみんなで作る準備をする。
- ・3月：保育園のオリジナル国旗を講師に見せ、どのような模様にしたのかを共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 国旗絵本 ・ 日本地図絵本 ・ 世界地図絵本
- ・ 世界のことばあそびえほん

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える:日本とアメリカをテーマにして食べ物やスポーツなどがそれぞれにどのようなものがあるかを問いかけ、2 つの国の違いをみんなで考えた。そこから国旗について問いを深め、外国の国旗の色や形を観察していき、自分のクラスの国旗を作るにはどのような色や形、模様にしようかを考えていった。

探究活動の様子:食事やスポーツなど知っている物を意欲的に発言する姿があった。外国の国旗を見る時間では、「日本の形に似てるね」「星がたくさんついてる」など国旗の形をよく観察していた。アメリカの国旗の色塗りでは、国旗の絵本を見ながら正しい色で塗ろうとする姿があり、自分の好きな国旗づくりでは、好きな動物や乗り物を描いて講師や友達と見せ合っていた。

保育園の国旗を作る際には、クラスでどのような国旗にするか話し合い、保育園にある玩具をそれぞれが描いて作ることにし、フラフープやブロック、おままごとの人形など、好きな玩具を描いていた。

振り返り(保育士の気付き):国旗の本や世界地図などをみんなで見る機会を設け、外国の形や国旗に興味を持てるようにした。国旗の観察では、子どもたちから形や模様に触れ、日本の国旗との違いを探す様子が見られ、よく観察していることが分かった。

【4 歳児実施分】

問いを考える:日本以外にも世界中には様々な国が存在していることを知ることができるよう、国旗をもとに考えた。その際には、国旗に描かれている物や各国の特色や名物も一緒に問いかけて、理解すると共に、興味を持てるようにした。

探究活動の様子:国旗の描かれたカードと世界地図を用いて、国旗から読み取れる国のイメージを考え、世界地図で場所を確認した。他にもアメリカ国旗の塗り絵をしたり、自分の国旗を考えた。また、アスクウきま保育園の国旗を考え、実際にいつも過ごしている保育園の特色を改めて話し合い、グループに分かれて作成した。

各国の特色を考える時には、それらの国の食べ物やスポーツ等、子どもの興味のある事柄から深掘をして、考えられるようにした。

振り返り(保育士の気づき):世界には様々な国がある事が分かり、国旗をどんどん覚えていった。保育園の国旗を作る時には、電車が見える、時計がある、園庭がある等、子ども達が保育園に対して、様々なイメージを持っていることがわかった。

【5 歳児実施分】

問いを考える：講師が掲示した国について世界地図を見ながら、その国の名前や国旗、場所を地図でどこにあるか問う。また、食べ物や有名な場所などをイラストで見比べてみる。

国旗の特徴をとらえながら「星がついてるって、」「青色の国旗だって」など子ども達で考えて答えを導き出せるようにした。改めて地図でその国の場所のクイズをしながら探し、有名な食べ物などを考え、最後にアメリカの国旗を色塗りする。

いろいろな国の国旗を見てきた中で、今度は自分たち自身で自分の好きな国旗を描いてみる。「キティちゃん描く？」「棒の部分は何かを描く？」など特徴を捉えて描けるように問いかける。

自分が作った国旗を発表する。講師より「何を描いたの？」と色や形などを子どもたちに聞いて英語で教えて貰う。また、色や形を英語で言いどのような国にしたのか伝える。フィリピンの国旗を見せて貰い、どんな食べ物があるのかどのような動物がいるのか学ぶ。

探究活動の様子：部屋に常備されてる世界地図を使い、いろいろな国の国旗や有名な物に触れて、世界に興味を持つ姿があった。

また、子ども達自身でイラストを通して日本とアメリカの食べ物や有名な場所を見比べて、「ハンバーガーはアメリカなんだね、星いくつ描いてあるかな」など国旗の特徴をとらえながら取り組んでいた。改めて日本のことを知る機会になった。

今度は自分自身で国旗を書いてみることになり、自分で好きなキャラクターや形、色などの国旗を描いて楽しむ。色や形などを講師が英語で教えてもらい、発表し、英語に触れていた。「星描きたい、お寿司描きたい」など自分の好きな物をたくさん描いていた。

振り返り(保育士の気付き)：自分で描いた国旗だからこそ、集中して書いて、英語に訳してもらおうのを楽しんでいた。色や形なら子どもたちも英語で伝えやすく、躊躇せずに話すことが出来ていた。違う国の文化にも触れ、興味を持って聞いていた。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	北区浮間 4-14-9
園名	アスクうきま保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の鳴る仕組みについて考える

<テーマの設定理由>

音や楽器にも人気があり興味が集まりやすい様子が見られるため。また、廃材も利用しているのでテーマにすることで幅広くつなげて楽しみながら探求活動をしていきたい。

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

- ・ 11 月：物や生き物を音で表す「オノマトペ」を表現する。電車や新幹線、猫の声、工事の音など、耳を澄ませるといろいろな音が聞こえてくることに気付いていた。
- ・ 12 月：園内で見つけたオノマトペを発表し、1 つの物から様々な音が出る不思議さを楽しむ。ペットボトルや割り箸を使い、講師の見本ように音を出すにはどうすれば良いか、話し合う。強く叩く、ギュッと握るなどの意見が出た。
- ・ 1 月：楽器や自分の喉の震えを体感し、音の出る仕組みについて考えた。実際に太鼓を使い、「白いところ・緑のところ・裏側」など、どこから音が出るか考える。
- ・ 2 月：体鳴楽器と膜鳴楽器の違いを学び、遊びを通して楽器の分類分けを行う。
- ・ 3 月：弦楽器の音の出る仕組みを知り、体鳴楽器、膜鳴楽器、弦楽器の分類を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

マラカス、音階マット（ミュージックパット）、ボルカホンチェアタイプ、ギロ、ブルートゥーススピーカー

【3 歳児実施分】

問いを考える:オノマトペの観点から身の周りにはいろいろな音が出るものがある事に気付けるように問いかけをした。音に興味を持ったところから、楽器を用いてそれぞれの音が出る仕組みについて考える問いかけをしたり、分類分けを行い、楽器の種類の違いに気付けるようにした。

探究活動の様子:保育園の周りにはいろいろな音がある事に気付き、散歩時にも見つけた物事に「ジャリジャリ」「ひらひら」など音を探す姿があった。ペットボトルや割りばしからの音を探した時には、落とす、叩く、凹ませるなど、様々な動作をしてそれぞれ異なる音が鳴る事を楽しんでいた。楽器からの音の出る仕組みでは、太鼓がどこから音が出ているのかを考え、「白いところ、裏」など様々な意見が出ていた。太鼓が膜が揺れて音の出る、膜鳴楽器というものと知ると、他にも膜鳴楽器があるのか興味を持っていた。また、身の回りにあるピアノや鈴がどのような楽器なのか講師に尋ねる姿も見られた。楽器の分類分けではこれまでに学んだことを活かして楽器の共通点を見つける事を楽しみながら分類分けに挑戦していた。

振り返り(保育士の気付き):オノマトペを探す活動を通して、自発的に音を探しに行ったり、身の周りの物事に音を付けたりしている姿が見られ、少しずつ音に興味を持って活動に取り組む姿勢があった。身の回りの物から音を出す活動では、叩く、落とすなどの行動だけでなく、投げる、という動作も行っていたのは予想外だった。楽器の種類を知ってからは、保育室の楽器や子どもたちが知っている楽器がどの種類に当てはまるのか興味を示していたため、日頃の保育の中で楽器に触れる機会や考える機会を設けていきたい。

【4 歳児実施分】

問いを考える:オノマトペの絵本を聞き、音について考えた。オノマトペについて考えたり、音を自分なりに身体で表現した。身の周りに音をビンゴを用いて探していくと色々な音を発見していた。

探究活動の様子:オノマトペでは、「ザーザー」「ポツポツ」「パラパラ」など雨ひとつとってもそれぞれの感じ方によって音が違った。ビンゴを使った活動では園内だけでなく、戸外でも音を見つけると周りに知らせていた。音のなる仕組みでは喉に触れて声を出したり触れる事を体験することが出来ていた。また様々な楽器がどのようにして音を出すのか学び分類することが出来ていた。

振り返り(保育士の気付き):オノマトペでは友だちによって表現が違い、それを楽しむことが出来ていた。音を鳴らすとき振動することを目で見て感じる事が出来ていた。振動する場所によって楽器が分類される事を知ると、子ども達からこれは「膜鳴楽器だね」等気付いた事を言葉にしていた。活動以外でも楽器を見ると分類することが出来ていた。鳴らす際音階があることにも気付き演奏したり音の高さにも目を向けて学びが広がっていた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：絵本を使い、オノマトペに触れ、様々な音の表現方法について知る。

絵本の中に出てきた音をみんなの前で身体で表現する。

お部屋の中にある物や玩具、ペットボトルを使って「どんな音がする？」など音について問う。最後にグループごとに歌を歌いながら発表。コンコンの所をカスタネット、クシャンの所をお手玉で表現したり、様々な発見が見られた。音がどうやって鳴るのか考える。自分で喉を触りながら声を出すと、どうなるか問う。

探究活動の様子：講師が読む絵本を一緒に見て、実際に音の表現で「サクサク」と身体で表現したり、ゲームを通じて、音に触れて楽しむ姿が見られた。

実際にお部屋の中にある物や玩具などを使って音の鳴り方を考えている姿があった。

課題として楽器を使ってどうやってなっているのか、保育者と実際に触れて考えた。

トライアングルを使い、音が振動して鳴ることを知る。楽器を楽器自体が鳴っているか(鉄琴、トライアングル)、膜がついているから鳴っているのか(タンバリン)分ける。膜鳴楽器、体鳴楽器という名前を知る。膜鳴楽器、体鳴楽器という名前を知り、楽器自体が音を鳴らしているのか、膜を使ってなっているのか、楽器を分けてみて、仕分けをした。

振り返り(保育士の気付き)：名前を知ることによって仕分けがしやすくなり、とても楽しんでいた。実際に音を鳴らしてみても、仕分けてみても良かった。知っている楽器だったこともあり、身近に感じて楽しんでいた。ゲーム形式でも触れられてとても良かった。

活動の様子が分かります
2
ります



さい。)



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	北区浮間 4-14-9
園名	アスクうきま保育園

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

きみの「できる!」をさがそう

＜テーマの設定理由＞

園庭もあり身体を動かすことが好きな子が多く、「とぶ」「ボール」も含め様々なことに気付き考えながらみつけて活動することができると考えたため。

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるようにする

・ 11 月：できる運動がどうしてももっとできるようになるか考えた。走るときには「大きく手を振る」ジャンプでは「足で蹴る」など、自分たちで考えて気づいたことを発言していた。

・ 12 月：どのようにしたらよりかっこよくジャンプができるか考える。仮面ライダーになる、キリンになるなど、沢山の考えが出たあと、跳び箱を使ってジャンプの練習をし、距離を計測した。

・ 1 月：バランス立ちを長く続けるにはどのような方法があるかを考えた。片足ジャンプで練習をするなどの意見が出た後、実践し計測した。

・ 2 月：駆け足を早くたくさんできるためにはどのような練習をしたら良いかを考えた。手をグーの形にする、足を速く挙げて動かすなどの意見が出て、実践練習をした後に計測をした。

・ 3 月：手の力だけで前に進み、「押す」をかっこよくできる方法を考えた。肘を伸ばす、手をパーに開く、を意識して早くゴールが出来るよう挑戦をした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・レインボーバランスストーン ・フラフープ ・リトルコーン
- ・連結縄跳び ・ソフトラグビーボール

【3 歳児実施分】

問いを考える:できることをよりできるようにするには、どうすればよいか考える。

ジャンプ・押す力・走る速度・バランスの 4 項目について、それぞれ 2 回ずつ計測し、どのようにしたらより良い結果を出せるか考察した。

探究活動の様子:バランスでは、ままごとをしながら片足立ちで鍛える、ジャンプでは、仮面ライダーに変身するなど、子どもなりに考えた意見がでた。また他児の意見を聞いて、実践の場で、一緒に仮面ライダーに変身をしたり、講師の助言の下、みんなでままごとのポーズを練習するなどした。

振り返り(保育士の気付き):もっとできるようになるにはという問いに対し、子どもなりに考え、発言をしていた。また他児の意見を聞いて、講師の補助の下、みんなで実践をする等、意見の共有も行うことができた。子ども同士で話し合いをすることは難しい場面もあったが、講師や保育者が仲介をする事で、生活の中にある事柄(好きな玩具や遊び等)を思い出し、すくわくの問いに結び付けて考えることができた。

【4 歳児実施分】

問いを考える:自分のできるを探すため、ジャンプやバランス力等測定を行った。

ジャンプ力をのばすためにどんな遊びをしたらよいかなど子ども達に問かけ、子ども達から出た意見を実践し、実際に記録が伸びたのか検証していく。

探究活動の様子:まずは自分達のできるを探し、どのようにしたら伸びていくか考えた。速く走る為には、足をあげる、素早く動かす、たくさん練習をするなど意見が出た。ジャンプ力をのばすには、跳び箱を使ってどのようにしたらいいか考えると、ジャンプが得意なカエルに変身してジャンプしてみる等意見がでた。それを聞き、うさぎになってみようと高く跳ぶ動物を連想しなりきって跳ぶ姿が見られた。

速く走る為にボールを使った遊びを考えると野球をする、大縄を使って中で逃げるなどオリジナルの遊びを考えてみんなに知らせていた。

振り返り(保育士の気付き):力を伸ばすためにどんなことをしたら良いか聞かれると、特定の子が多く発することがあった。回数を重ねていくことで、他の子も発言をしたり、みんなで考えたりしながら進めていく事が出来た。紙に記録していくことでどのくらい伸びたのか目でみて分かり、友だちに伝える姿も見られた。すくわくの時間以

【5 歳児実施分】

問いを考える：自分のできるを探そう！というテーマで自分の今のバランス力や跳ぶ距離について「ジャンプはどうしたら遠くに跳べるか」考える。自分の記録を実際に紙に書いてどれくらいできたかを見てわかるようにした。

前回の幅跳びの記録を伸ばすために跳び箱使ってどんな遊びができるか発表する。ジャンプをする、走って跳ぶ、高く跳ぶ、など意見を出す。幅跳びにも挑戦し、その場で足踏みをして 10 秒間何回できるか数える。もっと回数を増やすためにはどうしたらいいのか聞いて、子どもの考えを紙に書き出す。

どうやったら長い時間バランスを続けることが出来るのか、みんなで意見を出し合う。

探究活動の様子：自分のできるを探そう！というテーマでジャンプ力を調べる。「膝を曲げたほうが飛べるかも！」「手をグーにしてみる！」という意見が出る。またバランスでは、1 分という時間を設けて、みんなでバランス力を見る。手を横にしてバランスを取ってみたり、個々に考えながらやっていた。終わった後に自分たちで紙に記録を書く。友達とも見比べてみて、「次はもうちょっと伸ばしたい」という話が出る。

幅跳びの記録を伸ばすために跳び箱を使ってどんな遊びができるか発表する。ジャンプをする、走って跳ぶ、高く跳ぶ、など意見が出る。そしてその場で足踏みをして 10 秒間何回できるか数える。もっと回数を増やすためにはどうしたらいいのか考え紙に書き出す。

どうやったら長い時間バランスを続けることが出来るのか、みんなで意見を出し合う。飛行機ゲーム、フラミンゴゲーム、などバランス感覚を持つゲームをすれば伸びるという意見が出て、秒数を伸ばしてみんなで 70 秒に挑戦！前回より記録が伸びた子、短くなってしまった子もいたが、ケンケンをしたら伸びることがわかった。

振り返り(保育士の気付き)：記録を伸ばすために子どもたち一人一人が意見を出して考える時間があった。記録を紙に書いて子どもたち自身も振り返りが出来た。保育者や講師からも友達はどこを頑張って動かしてる？手はどうしている？などの問いかけもあったことでより深めることが出来た。周りの意見を聞いて取り入れてやってみようという姿が見られた。実際にやってみる時に「腕伸ばしてるよ」「足はどうなっているか」など子どもたちに聞いて気付きになるようにすることも出来た。押す力という動きで難しい部分もあったが、記録に書いて分数で見比べるようになっているのが、良かった。

